

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

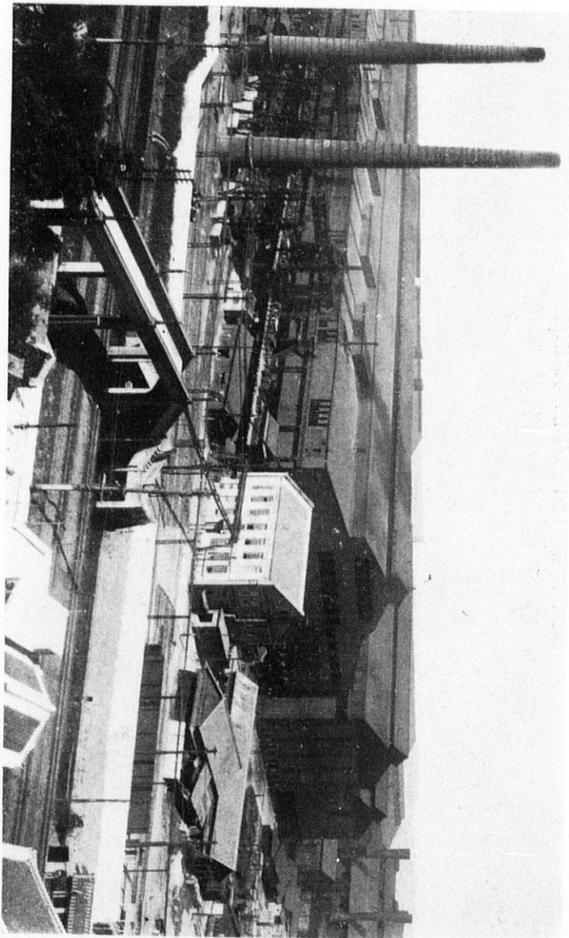
0000 0309

昭和九年九月

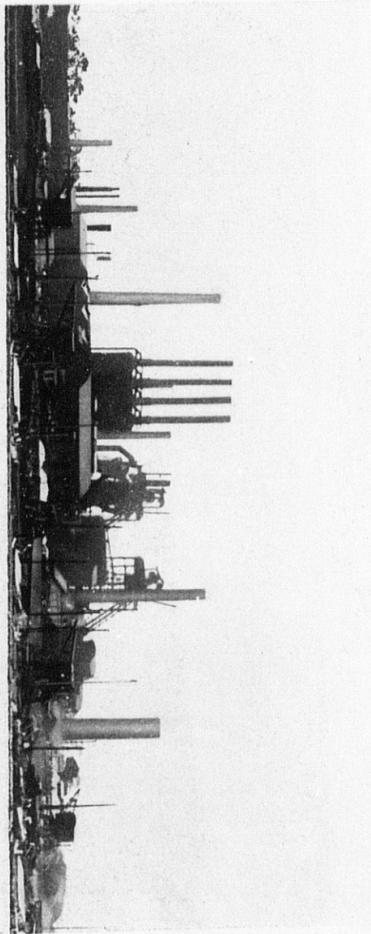
日本製鐵株式會社事業概要

日本製鐵株式會社

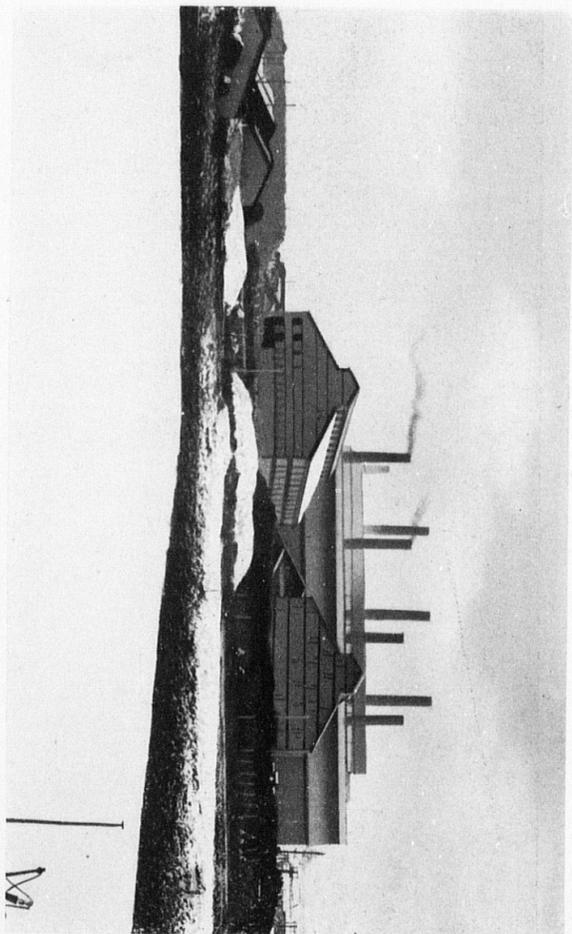
J. Nambo



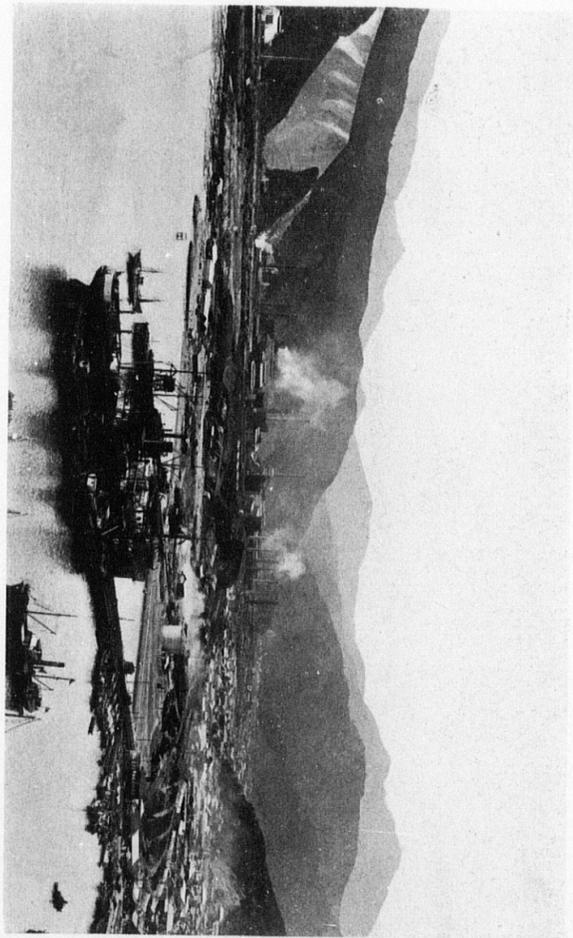
(近附場工鋼製二第) 部一ノ所製製八
(濟可許部命司製製圖下日七十二月八年九和昭)
ノ代ニ之ヲ以テ真寫本ヲ依、不待ヲトコルニ載指ヲ景全ノ其上係關ル在ニ内地地要ノ所本



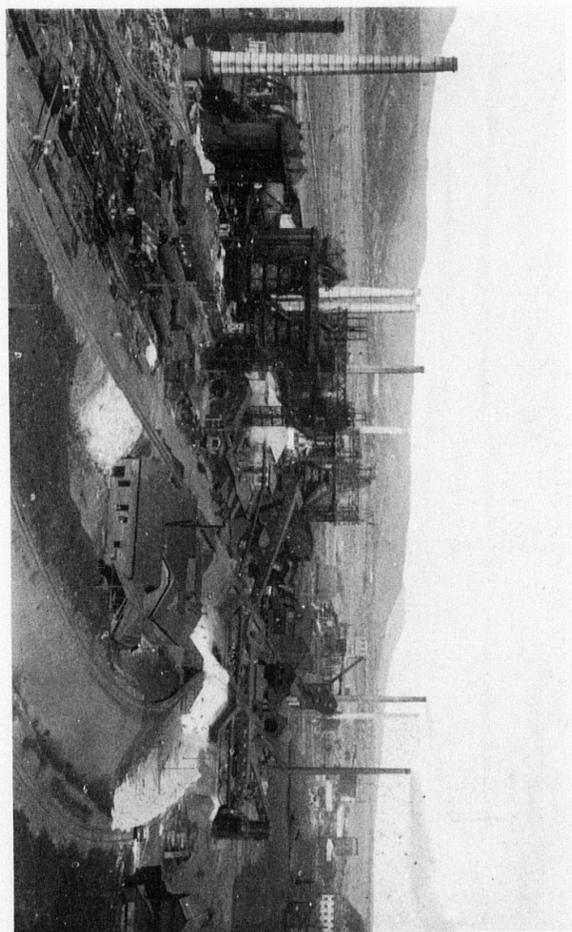
八幡製鐵所 知作業場
(昭和六年十二月七日 關東軍司令部許可證)



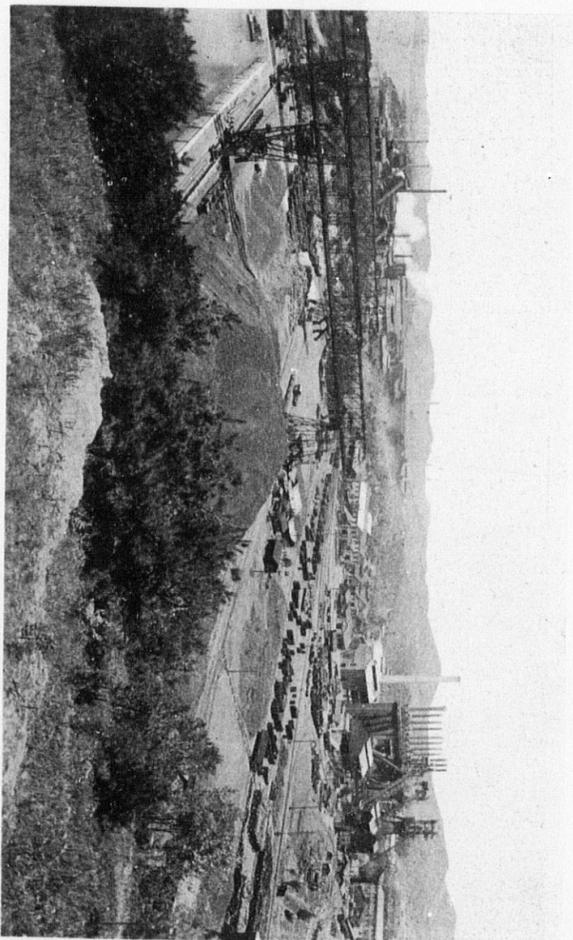
八幡製鐵所 西八幡工場
(昭和六年十二月七日 關東軍司令部許可證)



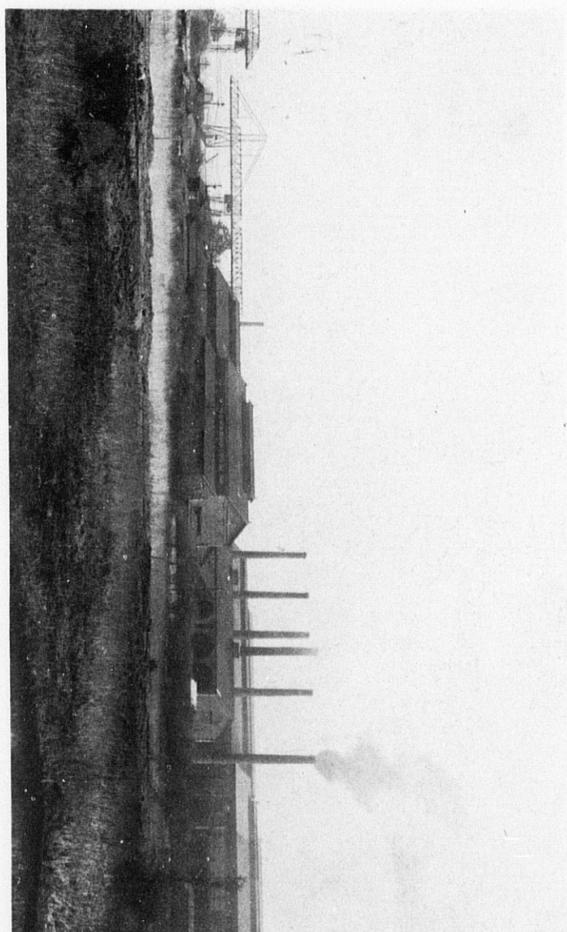
所 鐵 製 石 釜



所 鐵 製 西 輪



所 鐵 製 浦 二 兼



所 鋼 製 土 富

日本製鐵株式會社事業概要目次

一、設立ノ由來……………一

二、組織……………四

三、資本金……………五

四、位置……………七

五、主要製品及副産物……………八

六、生産高……………八

七、作業所……………九

 八幡製鐵所……………九

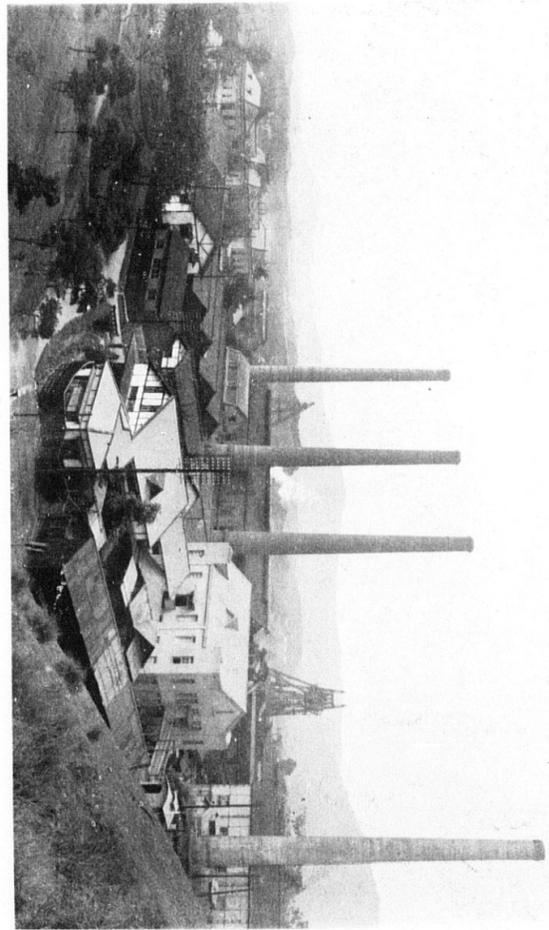
 輪西製鐵所……………九

 釜石製鐵所……………一五

 富士製鋼所……………一七

 兼二浦製鐵所……………二一

 二瀬鐵業所……………二五



所業鐵瀨二

日本製鐵株式會社事業概要

一 設立ノ由來

我國力ノ充實ヲ期スル爲國內ニ製鐵事業ヲ起スノ要アルコトハ、明治維新直後ヨリ既ニ識者ノ之ヲ認メタル所ニシテ、爾來數次ニ互ル當局ノ努力モ尙其ノ目的ヲ達スルニ至ラザリシガ、諸般ノ狀勢ハ益々其ノ必要ヲ痛感セシメ、政府ハ明治二十五年第四議會ニ於テ之ガ調査ニ關スル經費ノ協贊ヲ得、委員ヲ任命シ、原料、技術其ノ他各方面ニ涉ル精細ナル調査ニ着手セリ。國策未ダ決スルニ至ラズシテ日清戰役アリ、戰役ノ直後鋼製品九萬噸ノ生産ヲ目標トシ、鑄鐵、製鋼及壓延ノ三設備ヲ完備シタル銑鋼一貫ノ計畫ヲ以テ官營製鐵所創設ノ議ヲ定メ、明治二十九年第九議會ニ六ヶ年繼續事業トシテ協贊ヲ得、三十年地ヲ福岡縣八幡村ニトシ計畫實施ニ着手、三十四年二月ヨリ作業ヲ開始シ、茲ニ初メテ多年ノ懸案解決ノ端緒ヲ拓ケリ。

日露戰役中製鐵所ニ於テ陸海軍用鋼材ノ製造設備ヲ増加シタルガ、戰役後鐵鋼ノ需要激增ニ對應シテハ第一期擴張（明治三十九年ヨリ四ヶ年繼續、鋼製品年産九萬噸増）及第二期擴張（明治四十四年ヨリ五ヶ年繼續、鋼製品十二萬噸増）ノ二大擴張計畫ヲ實行セリ。

製鐵所第二期擴張ノ末期即チ歐洲大戰直前迄ハ民間ニ於ケル斯業ハ未ダ殆ンド見ルベキモノナク、銑鐵又ハ壓

一、設立ノ由來

一

日本製鐵株式會社事業概要

二

延鋼材ヲ生産スルモノハ僅カニ釜石鑛山及日本鋼管ノ二社ニ過ギズ、是等民間工場ノ生産額ハ大正二年ニ於ケル内地總生産額鉄鐵二十四萬噸中約二割六分、鋼材二十五萬五千噸中約一割六分ニシテ内地生産高ノ大部分ハ官營製鐵所ノ生産ニ屬セリ。

然ルニ大正三年歐洲大戰ノ勃發ニヨリ鐵鋼材ノ需要ハ未曾有ノ激増ヲ來シ、製鐵所ハ更ニ第三期擴張計畫(鋼製品三十五萬噸、鋼片十萬噸増)ヲ樹テ大正十八年ヲ期シ鋼材年産七十五萬噸ヲ產出スルコトナレリ。

民間ニ於テモ大戰中鐵鋼需要ノ異常ナル増加ニヨリ大正三年ヨリ同八年ニ至ル五ヶ年間ニ互リ鉄鐵又ハ普通壓延鋼材ノ製造ヲ開始シタルモノ頗ル多ク、其ノ主ナルモノハ滿洲ニ於ケル本溪湖及鞍山兩製鐵所ノ外、富士製鋼、三菱製鐵(兼二浦)、大阪製鐵、淺野造船所、官營製鐵所ノ半製品ヲ原料トシテ之ガ壓延ヲ目的トスル東海鋼業、其ノ他約十工場ヲ算シ、大正八年ニ於ケル官民ノ總生産高鉄鐵約七十八萬噸(本溪湖及鞍山ノ分ヲ含ム)、鋼材約五十五萬噸中是等民間諸工場ノ生産高ハ鉄鐵約六十四%、鋼材約五十%ニシテ鋼材ニ於テハ官民略相等シク、鉄鐵ニ於テハ官民其ノ位置ヲ顛倒スルニ至レリ。而シテ本溪湖及鞍山ノ分ヲ除クトキハ民間諸工場ノ鉄鐵生産歩合ハ總生産高ノ約五十八%ナリ。平和克復ト共ニ斯業ノ發展ハ一頓挫ヲ來シタルモ、政府ノ保護獎勵ト當業者ノ努力トニ依リ爾後十數年ニ互リテ、幾多曲折ノ裡ニモ逐年斯業ノ改善發達著シキモノアリ、殊ニ薄板製造業ノ進展最モ顯著ナリ。此ノ間官營製鐵所ハ第三期擴張計畫ヲ完成シタル外、巨額ノ改良補充費ヲ以テ銑鋼一貫ノ方針ヲ持シテ其ノ設備ヲ擴充改良シ、一般土木建築、鐵道用鋼材ノ外、艦船其ノ他軍需用鋼材ノ製造力ヲ充實シ、薄

板、鋼力板、鋼矢板等從來輸入ニノミ仰ギタルモノノ生産ヲモ爲スニ至リ、斯テ我製鐵業ハ品種ニ於テモ亦數量ニ於テモ殆ンド國內ノ需要ヲ自給シ得ルニ至レリ。本社創立ノ前年タル昭和八年ニ於テハ國內ニ於ケル總生産高ハ鉄鐵約二百三萬噸、鋼材約二百七十五萬噸ニ達シテ何レモ國內需要ノ九十%以上ニ當リ、此ノ内民間生産高ハ鉄鐵ニ於テ約五十五%、鋼材ニ於テ約六十四%ナルモ東洋製鐵株式會社及九州製鋼株式會社ノ工場ハ官營製鐵所ニ於テ借入作業セルガ故ニ其ノ生産高ハ民間工場ノ分ヨリ控除シ之ヲ製鐵所ノ分ニ加ヘ且ツ官營製鐵所ガ當年中間壓延工場ニ供給シタル「シートバー」其ノ他ノ半製品ヲ材料トシテ壓延セラレタル製品ハ工程ノ大部分ハ官營製鐵所ニ於テ行ハレタルモノナルニ依リ假リニ之ヲ官營製鐵所ニ於テ製品迄ニ仕上グルモノト見テ此ノ噸數ヲ官民間ニ加除スルトキハ民間ノ生産歩合ハ鉄鐵約五十%、鋼材約四十五%トナレリ。然レドモ民間工場ハ諸所ニ點在シ其ノ規模概ネ大ナラズ、作業上ノ連絡統制ニ於テモ缺クル所尠シトセズ、外國品ノ激甚ナル不斷ノ競争ニ對シテハ、尙斯業ノ經營ヲ合理化シ生産ヲ統制シ製品ノ品位ヲ向上シ價格ヲ低廉ナラシムル爲適當ノ方策ヲ講ズルノ要アリ。政府ハ明治二十九年官營製鐵所ヲ創設シテ以來斯業ノ確立ヲ期センガ爲ニハ、獨リ關稅ノ保護ヲ以テ足レリトセズ、屢々調査委員會ヲ設ケテ之ガ方策ヲ議セシメ、其ノ答申ニ基キ獎勵金制度ノ創設、土地收用法ノ適用、免稅ノ特典等ノ施設ヲモ實施シタルガ、是等ノ委員會ハ根本的方策トシテ一大合同會社ヲ設立スルコトヲ要ストノ意見ヲ答申シタルモノ多ク、殊ニ昭和五年臨時產業審議會ハ「官營製鐵所及民間製鐵所ヲ打ツテ一丸トセル大合同會社ヲ設立シ其ノ完全ナル統制ノ下ニ徹底的合理化ヲ圖リ單種多産ニ依ル原價ノ低下ト品質ノ向

一、設立ノ由來

三

日本製鐵株式會社事業概要

上トニ努ムルト共ニ設備ノ改良擴張ヲ行フノ外適當ナル方策アルヲ見ズ」ト答申セリ。
 仍テ政府ハ右委員會ノ答申ニ基キ其ノ具體的方法ヲ考究シ、遂ニ第六十四議會ニ於テ日本製鐵株式會社法ノ協賛ヲ得、昭和八年四月五日日本法ノ公布セラレルヤ、制規ノ手續ヲ了シタル上、昭和九年一月二十九日日本製鐵株式會社ヲ創立シ、政府ハ官營製鐵所ノ工場及鑛山ヲ現物出資シ、民間製鐵業者中、輪西、釜石、富士、三菱(兼二浦)、九州製鋼ノ五社亦其ノ工場ヲ出資シテ同年二月一日其ノ業務ヲ開始スルニ至レリ。次デ同年四月一日東洋製鐵株式會社モ亦合同ニ參加セリ。而シテ日本製鐵株式會社所屬各工場ノ生産高ハ昭和八年即チ會社創立ノ前年ノ實績ニ依レバ、銑鐵約百五十萬噸、鋼材約百二十二萬噸ニシテ、同年ノ國內全生産高ニ對シ銑鐵約七十四%、鋼材約四十三%ニ當ルモ曩ニ官營製鐵所昭和八年ノ項ニ於テ述べタル如ク當社ヨリ社外製鐵工場ニ供給シタル「シートバー」其ノ他ノ半製品ニ對スル製品ノ噸數ヲ双方ニ加除スルトキハ右鋼材ハ百三十七萬餘噸トナリ全生産ノ五十%ハ日本製鐵會社ニ於テ製造シタル事トナル。尙銑鐵ニ就テハ本溪湖及鞍山ノ分ヲ除クバ日本製鐵會社ハ約九十四%ヲ占メ大正八年ニ於ケル民間工場ノ生産歩合五十八%ニ比スルトキハ著シキ増率ヲ示ス。是過去十數年間ニ於ケル民間小形鑛爐ノ凋落ト當社創立ノ爲銑鐵製造會社參加ノ結果ニ由ルモノトス。

二 組織

本會社ハ昭和八年四月五日法律第四十七號日本製鐵株式會社法ニ依リ設立セラレ、鐵鋼ノ製造及販賣ニ關スル

事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社ナリ。

本會社ノ資産ハ主トシテ政府ノ現物出資シタル製鐵所ノ工場及鑛山並輪西製鐵株式會社、釜石鑛山株式會社、富士製鋼株式會社、九州製鋼株式會社、東洋製鐵株式會社及三菱製鐵株式會社ノ六會社ノ現物出資シタル工場及其ノ附屬設備ニシテ政府ハ株式ノ過半數ヲ所有スルコトナリ居レリ。

本會社ノ役員ハ現在取締役十七名、監査役五名ニシテ、取締役會長ハ取締役中ヨリ、社長ハ代表取締役中ヨリ何レモ株主總會ニ於テ選任セラル。取締役會長ハ株主總會及取締役會ノ議長トナリ、社長ハ取締役會ノ決議ヲ執行シ社務ヲ總理ス。常務取締役ハ株主總會ニ於テ取締役中ヨリ選任セラレ、社長ヲ輔佐シテ社務ヲ掌理ス。又常任監査役ヲ置ク、株主總會ニ於テ監査役中ヨリ選任セラル。

本店ニ總務、經理、販賣、技術及監理ノ五部ヲ置キ各部ヲ通ジテ十二課ニ分チ事務ヲ分掌セシム。秘書役ハ社長ニ專屬ス。

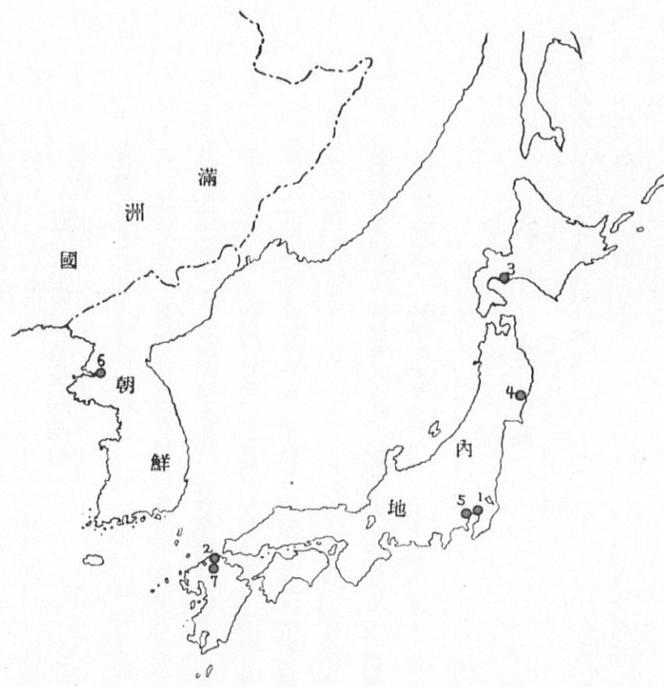
本會社ニ本店ノ外、八幡、輪西、釜石、兼二浦ノ各製鐵所、富士製鋼所及二瀬鑛業所ノ六作業所ヲ置ク。

三 資本金

本會社ノ資本金ハ參億五千九百八拾貳萬壹千圓ニシテ創立當時ノ政府及各會社ノ出資額並東洋製鐵株式會社ノ出資額左ノ如シ。

二、組織 三、資本金

四、位
置



四、位
置

七

- | 番號 | 名稱 | 位 置 |
|----|--------|------------|
| 1 | 本 店 | 東京市麴町區丸ノ内 |
| 2 | 八幡製鐵所 | 福岡縣八幡市枝光 |
| 3 | 輪西製鐵所 | 北海道室蘭市輪西町 |
| 4 | 釜石製鐵所 | 岩手縣上閉伊郡釜石町 |
| 5 | 富士製鋼所 | 神奈川縣川崎市大師町 |
| 6 | 兼二浦製鐵所 | 朝鮮黃海道兼二浦 |
| 7 | 二瀨鐵業所 | 福岡縣嘉穗郡穗波村 |

日鐵
鐵業

日本製鐵株式會社事業概要

政 府	額
輪西製鐵株式會社	二八四、一九五、〇〇〇圓
釜石鑛山株式會社	一一、六一二、〇〇〇圓
釜石鑛山株式會社	二二、九九四、〇〇〇圓
富士製鋼株式會社	二、七七三、〇〇〇圓
九州製鋼株式會社	七、二〇四、〇〇〇圓
三菱製鐵株式會社	一七、〇五七、〇〇〇圓
東洋製鐵株式會社	一三、八八一、〇〇〇圓
其 他	一〇五、〇〇〇圓
計	三五九、八二二、〇〇〇圓

六

五 主要製品及副産物

× 主要製品

- 鉄 製鋼用鉄、鑄物用鉄、低磷鉄、合金鉄
- 鋼塊及鋼鑄物 普通鋼鋼塊及鑄物、合金鋼鋼塊及鑄物
- 鋼 材 棒鋼、形鋼、軌條類、厚板、中板、薄板、鉄力板、硅素鋼板、線材、外輪、鍛鋼品、鑄鋼品、其ノ他合金鋼鋼材

× 副産物

- 鑄鐵爐副産物 高爐セメント、鑄滓煉瓦、鑄滓ガラス、鑄滓綿
- 鼓炭爐副産物 硫酸アンモニア、ベンゾール類、クレオソート油、タール、ピッチ、其ノ他

六 生産高

昭和八年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

- 鉄 一、四九六、九九三 吨
- 鐵 一、二二四、六八二 吨

- 鋼 材 一、二二四、六八二 吨
- 販賣向半製品(鋼塊、含マズ) 一六九、五四五 吨

右生産高ハ本會社繼承前ニ於ケル當該工場ノ數量ヲ計上セリ。

七 作業所

八幡製鐵所

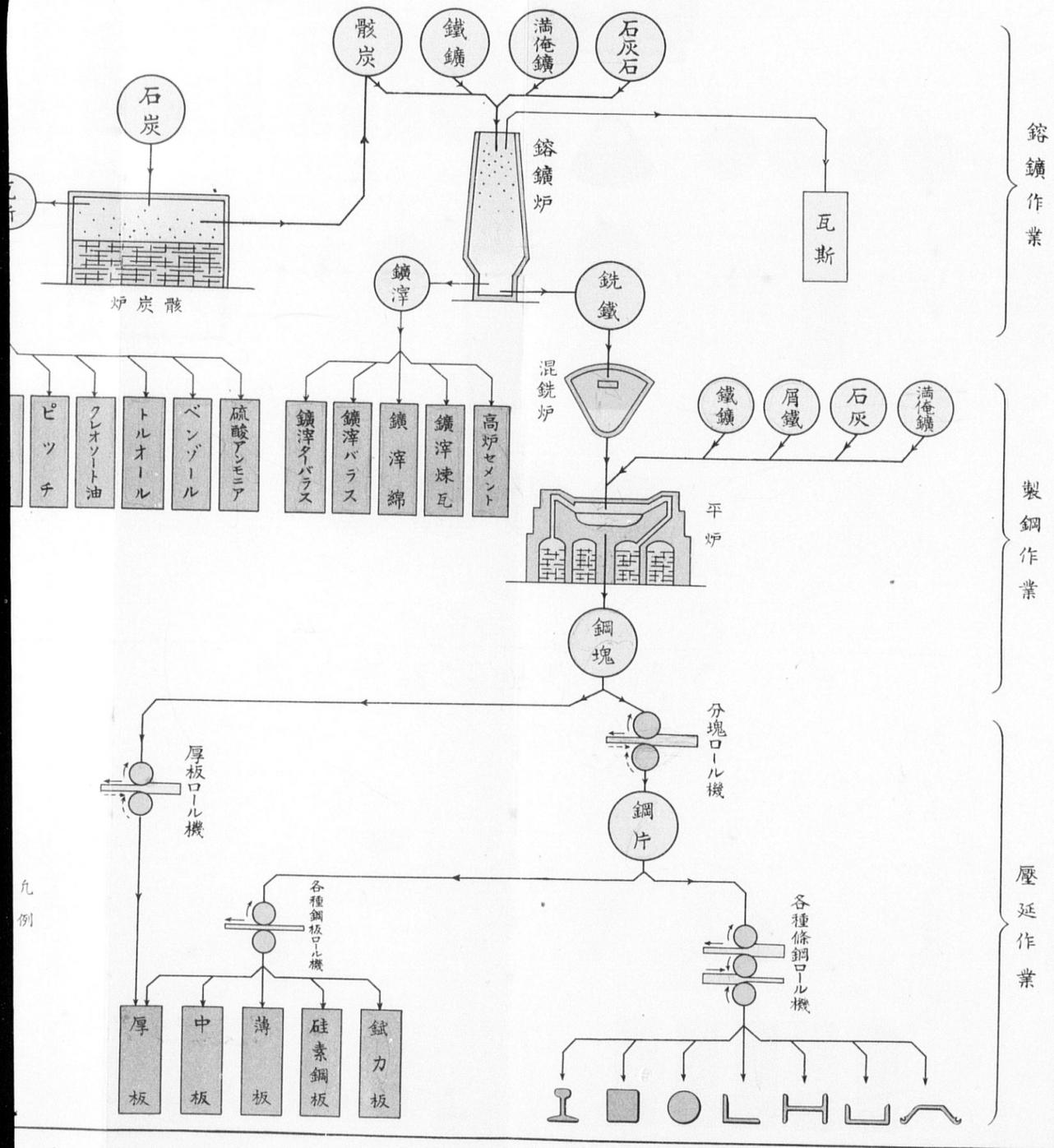
- 一、沿革 明治二十九年三月二十九日製鐵所官制發布セラレ。明治三十四年二月五日第一鑄鐵爐ノ火入ヲ爲シ、次テ製鋼及鋼材壓延作業ヲモ始メ、同年十一月十八日伏見宮貞愛親王殿下ノ御臨場ヲ仰ギテ作業開始式ヲ舉ゲ、爾來官營ノ下ニ事業ノ擴張發達ヲ圖リ來リシガ、日本製鐵株式會社法ニ依リ昭和九年二月一日以降官營製鐵所ヨリ出資セルモノノ内炭山ヲ除キタル一切ノ設備及九州製鋼株式會社ノ出資シタル西八幡工場並東洋製鐵株式會社ヨリ借受タル戸畑作業場(四月一日東洋製鐵株式會社ヨリ出資)ヲ併セ八幡製鐵所ト改稱セリ。
- 二、組織 所長、技師長及左ノ十部、二課、一院ヲ置キ、更ニ各部ヲ通シ三十六課ヲ置ク。
 - 總務部、鉄鐵部、製鋼部、條鋼部、鋼板部、鼓炭部、窯業部、工務部、動力部、
 - 運輸部、檢定課、技術課、研究所、病院
- 三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。
- 五、主要製品及副産物 六、生産高 七、作業所 (八幡製鐵所)

日本製鐵株式會社事業概要

鑄鐵	平爐	タルボット式平爐	電氣爐	坩堝爐	混鉄爐	分塊工場	鋼材壓延機	外輪製造設備	鍛鋼設備	鑄造設備	ポールの工場	洗炭設備	骸炭爐	硫酸アンモニア製造設備
一	三	二	四	三	七	六	四	一	一	一	一	五	五	三
基	基	基	基	基	基	基	基	所	所	所	所	所	所	所

七、作業所（八幡製鐵所）

ベンゾール製造設備	輕油製造設備	タール蒸餾設備	煉炭製造設備	高爐セメント製造設備	高爐煉瓦製造設備	鑄造バラス製造設備	發電所	貯水池	鐵道	鐵山	クローム鐵山	石灰及苦灰石山	硅石山	粘土山
一	一	一	一	一	三	二	五	四	二	六	一	五	三	一
所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所	所



凡例

鑄造作業

製鋼作業

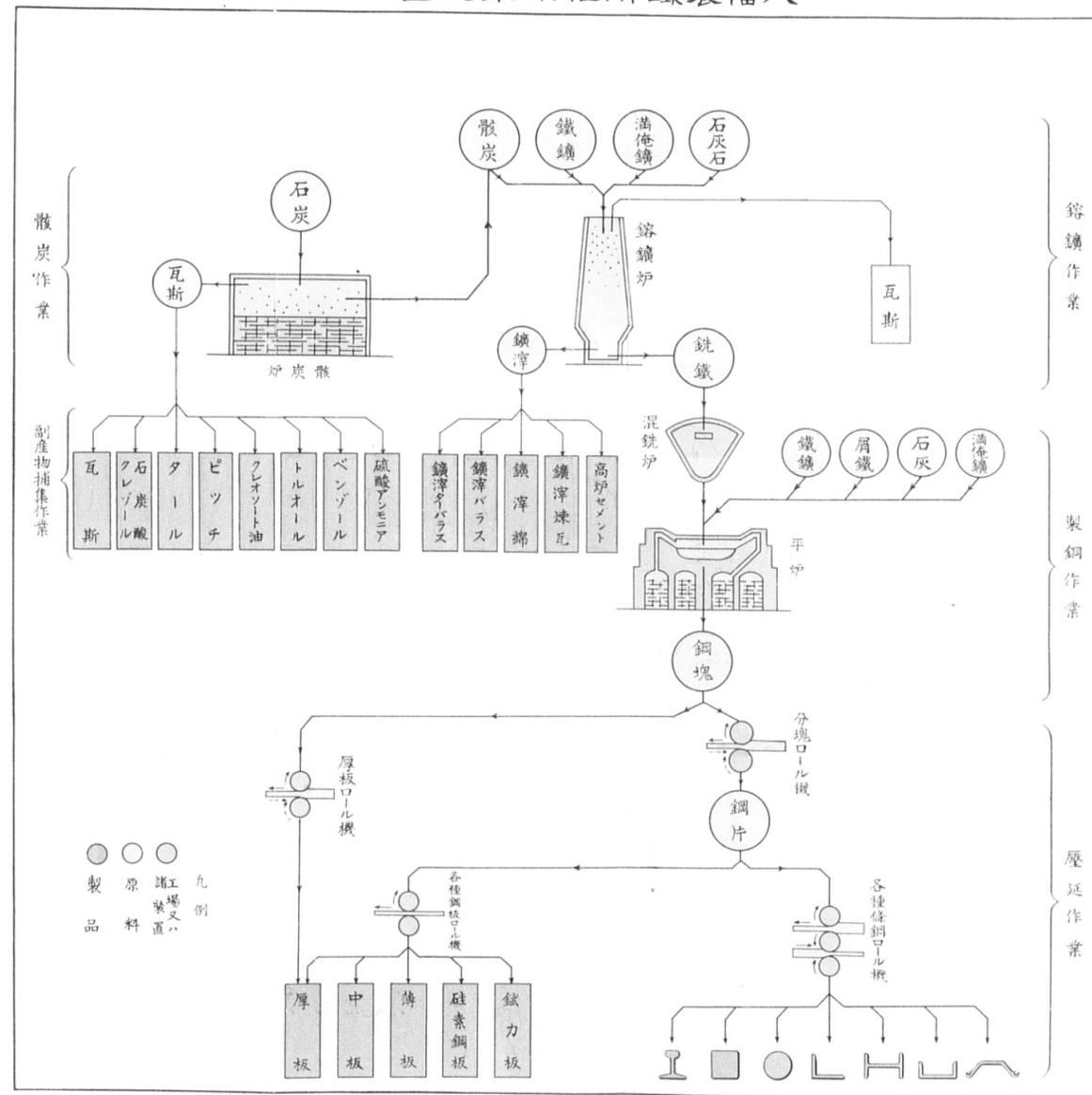
壓延作業

五、主要製品及副産物

系統圖参照)

日本製鐵株式會社事業概要
 研究所ハ製鐵事業ノ實際ニ即シタル技術上ノ研究ヲ目的トシ、四研究室ニ分ツ。各研究室ニハ監事、研究員及副研究員ヲ置ク。
 四、作業ノ概要 鐵礦石ヲ焦炭、石灰石及滿俺礦ト共ニ鑄鐵爐ニ装入シ、熱風ノ作用ニ依リ鐵礦石中ノ鐵分ヲ還元シテ鑄鐵トナシ、夾雜物ハ鑄滓(のろ)ト爲シテ分離セシム。
 鑄鐵ハ冷却セザル間ニ之ヲ混鉄爐ニ移シ、鑄融状態ノ儘貯藏シ隨時平爐ニ装入精鍊シテ製品ノ粗材タル鋼塊ト爲ス。平爐ハ概ネ鹽基性ニシテ製鋼方法ハ一部屑鐵法ニ依ルモノアルモ、多クハ右ノ鑄鐵ヲ主原料トシ、還元劑ハ主トシテ鐵礦石ヲ用フル所謂鑄石法ヲ行フ。燃料ハ概ネ發生爐瓦斯及焦炭、鑄鐵爐ノ混合瓦斯ニ依ル。鋼塊ハ熱間ニ鑄型ヨリ抽出シテ之ヲ均熱爐ニ移シ適時取出シテ分塊壓延機ヲ以テ壓延シ、適當ノ太サニ截斷シテ鋼片トナシ、熱間ニ鋼材壓延工場ニ移シテ各種ノ鋼材ヲ造ル。鋼板及中小形製品ニハ冷却セル鋼片ヲ再熱シテ使用スルコト多シ。特殊鋼ノ製造ニハ一般ニ坩堝爐又ハ電氣爐ヲ用フ。
 副産物ノ主ナルモノハ鑄鐵爐及焦炭爐ヨリ產出スルモノニシテ鑄滓ヨリハ高爐「セメント」、鑄滓煉瓦、鑄滓「パラス」、鑄滓綿ヲ造リ、鑄鐵爐瓦斯ハ洗滌シテ工場内各種用途ノ燃料トス。又焦炭爐瓦斯ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、瓦斯ハ燃料トス。(附圖ハ鑄鐵製鐵所作業系統圖参照)

八幡製鐵所作業系統圖



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 4



(イ) 主要製品

銑 鐵 製鋼用銑、鑄物用銑

鋼塊及鋼鑄物 普通鋼鋼塊及鑄物、合金鋼鋼塊及鑄物

鋼材 軌條、エレベーター用軌條、軌條繼目板、等邊山形鋼、不等邊山形鋼、工形鋼、溝形鋼、T形鋼、

球山形鋼、Z形鋼、鋼矢板、丸鋼、角鋼、六角鋼、平鋼、線材、厚板、ユニバーサル平鋼、中板、

薄板、鋳力板、美裝鋼板、珪素鋼板、外輪、車軸、鍛鋼品、鑄鋼品、各種合金鋼鋼材、ボールト、

ナット、リベット、スパイキ

(ロ) 副産物

銻 鑄爐副産物 高爐セメント、鑄滓煉瓦、鑄滓パラス、鑄滓ターパラス、鑄滓綿

散炭爐副産物 硫酸アンモニア、ピッチ、ピッチコーク、クレオソート油、アンスラシン、ナフサリン、

石炭酸、クレゾール、純ベンゾール、純トルオール、モーターベンゾール、ソルベントナフサ

六、生産高 昭和八年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

銑 鐵 一、〇二二、九七六 噸

鋼 材 一、〇六三、三四一 噸

販 賣 向 半 製 品 一六八、七八九 噸

七、作 業 所 (八幡製鐵所)

日本製鐵株式會社事業概要

一四

七、福利施設 (一) 従業員ノ徳性ノ涵養及作業上須要ナル學識技能ヲ授クル爲教育所ヲ設ケ、(二) 従業員及家族ノ診療機關トシテ病院ヲ置キ、(三) 共済組合ヲ組織シテ公傷病其ノ他ニ對スル給付ヲ行ヒ、貯金部及貸付部ヲ設クルノ外購買部ニ於テハ日用品ノ供給ヲ行ヒ、(四) 懇談會ニ於テハ所内一般職工共通ノ利害關係アル事項ニ付又部所協議會ニ於テハ各部所内職工共通ノ同上事項ニ付意思ノ疏通ヲ圖リ、(五) 毎年一回従業員及其ノ家族ニ對シ慰安會ヲ開催シ、(六) 更ニ従業員會館ヲ設ケテ教化修養及慰安娛樂ニ關スル諸般ノ施設ヲ行ヒ、圖書館、人事相談所ヲ置キ集會所大谷會館ヲ經營ス。

附

舊東洋製鐵株式會社及九州製鋼株式會社

東洋製鐵株式會社ハ大正六年十一月一日ノ創立ニシテ大正八年五月十二日第四鑄鐵爐ノ火入ヲ行ヒ、事業繼續中大正十年四月十六日製鐵所ニテ借受ケタリ。同會社ノ工場ハ目下八幡製鐵所戸畑作業場トシテ八幡製鐵所ノ一部タリ。八幡製鐵所ノ設備中ニ計上セシモノノ内同會社ヨリ出資シタルモノ左ノ如シ。

鑄	鐵	一	箇	所
洗	炭	一	箇	所
散	炭	五	五	基
硫酸アンモニア	製造設備	一	箇	所

九州製鋼株式會社ハ大正六年九月三十日ノ創立ニシテ、昭和三年十一月七日製鐵所ニテ借受ケ作業ヲ開始セリ。其ノ工場ハ目下八幡製鐵所西八幡工場トシテ八幡製鐵所ノ一部タリ。八幡製鐵所ノ設備中ニ計上シタルモノニシテ同會社ヨリ出資シタルモノ左ノ如シ。

平	爐	三	基
鋼	材	二	基
鐵	道	二	基

輪西製鐵所

一、沿革 明治四十二年北海道炭礦汽船株式會社ガ初メテ噴火灣一帯ノ砂鐵ヲ原料トシテ鑄鐵爐ノ作業ヲ開始シタリ。然ルニ僅カニ二ヶ月ニシテ之ヲ中止シ大正二年十二月附近產出ノ沼鐵鑄及支那、朝鮮產ノ鐵鑄石ニテ再ビ事業ヲ開始シ、其ノ後北海道製鐵株式會社ノ經營ニ移シ、次デ株式會社日本製鋼所ト合併スル等、經營

七、作業所 (輪西製鐵所)

一五

一、沿革 釜石鐵礦石ノ發見ハ享保十二年(今ヨリ貳百餘年前)ニシテ文政十二年初メテ之ヲ採掘セリ。明治維新ノ際舊南部藩ノ所有ニ歸シタルガ明治六年小野善右衛門之ヲ讓受ケ製鍊ニ從事セリ。然ルニ政府ハ同年鑛山寮釜石支廳ヲ置キ鑛山ヲ官行ト爲シ人民ノ借區ヲ停止シ同七年錦子ニ洋式ノ製鍊所ヲ起工シ同十三年設備略整頓シ洗鐵ノ製造ヲ開始シタルガ幾許ナク木炭ノ缺乏ノ爲作業ヲ休止シ更ニ設備ヲ改善シ十五年再製造ヲ開始シタルガ作業意ノ如クナラズ十六年遂ニ事業ヲ廢止セリ。同十七年田中長兵衛ハ右設備一部ノ拂下ヲ受ケ工場敷地ノ一部ヲ借受ケテ新ニ作業ヲ開始シ幾多ノ困難ヲ經テ明治十九年初メテ鑛山再興ノ端ヲ拓キ同二十年鑛山用地並殘存設備一切ノ拂下ヲ受ケ釜石鑛山田中製鐵所ト名ケ、明治三十六年壓延鋼材ノ製造ヲ開始シタリ。大正六年三月會社組織トシテ田中鑛山株式會社トナリ、大正十三年七月其ノ經營ヲ三井鑛山株式會社ニ移スト共ニ釜石鑛山株式會社ト改稱シ、益々事業ノ擴張改良ヲ圖リシガ、昭和九年二月日本會社ニ於テ釜石町所在ノ製鐵業一切ヲ繼承シタリ。

二、組織 所長、技師長及庶務部、作業部ヲ置キ更ニ之ヲ十一課ニ分ツ。
三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

平	電	鑄	錫	鑄	錫
爐	氣	爐	爐	爐	爐
五	一	二	二	二	二
基	基	基	基	基	基

鋼材	洗炭	散炭	硫酸アンモニア	ターナル	ターナル	粗ベンゾール	鑄煉瓦	發電	貯水	鐵道
壓延機	設備	爐	製造設備	捕集設備	蒸餾設備	回收設備	製造設備	所	池	道
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	二
所	所	基	所	所	所	所	所	所	所	料

四、作業ノ概要 洗鐵ノ一部ハ冷鉄トシテ外部ニ賣却シ又ハ社内他工場ニ於テ之ヲ使用シ、大部分ハ鑄鉄ノ儘平爐ニ送り、精鍊シテ鋼塊ヲ造リ、之ヲ壓延シテ各種鋼材ヲ生産ス。
鑄煉瓦ハ之ヲ加工シテ鑄煉瓦ヲ造リ、散炭爐瓦斯ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、瓦斯ハ燃料トシテ之ヲ利用ス。

七、作業所(釜石製鐵所)

日本製鐵株式會社事業概要

右ノ外電氣爐ニ於テ硅素鐵及滿俺鐵ヲ製造ス。

五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

銑 鐵 製鋼用銑、鑄物用銑
合金鐵 硅素鐵、滿俺鐵

鋼塊及鋼鑄物 普通鋼鋼塊及鑄物

鋼 材 小形丸鋼、中小形山形鋼、平鋼、シートバー

(ロ) 副産物

鑛滓煉瓦、硫酸アンモニア、粗製ベンゾール、タール、輕油

六、生産高 昭和八年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

銑 鐵 一九四、三二八噸

鋼 材 九六、四三八噸

販 賣 向 半 製 品 二六五噸

七、福利施設 (一)從業員ニハ一般ニ住宅ヲ供シ、(二)子弟教育ノ爲ニ小學校ヲ設ケ、(三)從業員及家族ノ爲病院ヲ置

キ、(四)娯樂慰安機關トシテ俱樂部、公園及運動場アリ。(五)從業員ノ意思疏通ヲ圖ル爲眞道會ト稱スル協調機

關テ設ケ、(六)購買部ヲ置キテ日用品ヲ供給ス。

富士製鋼所

沿革 大正六年十一月三十日富士製鋼株式會社創立セラレ、酸性平爐水壓鍛鍊機諸工作機械ヲ設備シ、大正七年五月十日鋼塊、鍛鑄鋼品及機械類ノ製作ニ着手セシモ歐洲大戰後大正十年二月事業ヲ中止セリ。而シテ其ノ後經營者代リテ工場設備ヲ改變シ大正十四年二月普通鋼鋼塊及條鋼ノ生産ヲ開始シテ相當ノ成績ヲ擧グルニ至リシガ、昭和九年二月一日日本會社ニ於テ之ヲ繼承シタリ。

二、組織 所長、次長及事務、作業ノ二課ヲ置ク。

三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

平 爐

鋼 材 壓 延 機

鐵 道

基 基

一 基

四 基

四、作業ノ概要 製鋼方法ハ層鐵ヲ主タル原料トスル層鐵製鋼法ニ依リ、鋼塊ノ大部分ハ之ヲ壓延シテ小形棒形鋼ヲ作り、一部ハ之ヲ社内他工場ニ送ル。

五、主要製品

七、作業所 (富士製鋼所)

日本製鐵株式會社事業概要

- 鋼塊 普通鋼鋼塊
- 鋼材 丸鋼、八角鋼、平鋼、等邊山形鋼
- 六、生産高 昭和八年中鋼材ノ生産高次ノ如シ。
- 五四、九〇三噸
- 七、福利施設 (一)共和會ヲ設テ從業員相互ノ救濟、慰問、娛樂機關ノ設置、消費組合ノ施設及貯金獎勵ヲ行ヒ、(二)健康ノ増進及災害防止等ノ爲種々ノ施設ヲ爲ス。

兼二浦製鐵所

- 一、沿革 三菱合資會社ハ既ニ明治四十五年兼二浦ニ製鐵所ヲ設クルノ議ヲ決シ居タルガ、大正四年同社ニ臨時建設部ヲ置キ直チニ工事ニ着手セリ。次デ大正六年十月三菱製鐵株式會社設立セラレ、三菱合資會社ヨリ朝鮮ニ於ケル製鐵所建設及鑛山ノ事業一切ヲ繼承シ、大正七年六月十三日鑛鑛爐、翌八年七月製鋼及鋼材壓延作業ヲ開始シ、其ノ後盛衰アリシガ昭和九年二月一日其ノ製鐵事業一切ヲ本會社ニテ繼承シタリ。
- 二、組織 所長、次長及庶務部、作業部ヲ置キ、更ニ之ヲ十三課、一病院ニ分ツ。
- 三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

鑛 鑛 爐 三 基

特殊鉄精製爐	一	基
平塊壓延機	三	基
分塊壓延機	一	基
鋼材壓延機	二	基
洗炭設備	一	筒所
炭爐	一	筒
硫酸アンモニア製造設備	一	筒
ベンゾール製造設備	一	筒所
ターナル蒸餾設備	一	筒所
煉炭製造設備	一	筒所
鑛滓煉瓦製造設備	一	筒所
高爐セメント製造設備	一	筒所
發電所	三	筒所
貯水池	一	筒所
鐵道	二	三 秆

日本製鐵株式會社事業概要

二四

四、作業概要 銑鐵ハ冷銑トシテ外部ニ賣却スルモノノ外ハ銑銑ノ儘之ヲ平爐ニ送り、製鋼用ニ供シ、鋼塊ノ一部ハ社内他工場ニ送り其ノ他ハ壓延シテ鋼材トナス。銑鐵爐瓦斯ハ燃料ニ供シ、煖炭爐瓦斯ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、瓦斯ハ之ヲ燃料トシテ利用ス。

五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

銑鐵 製鋼用銑、鑄物用銑、特殊鑄物用銑、低磷銑

鋼塊 普通鋼鋼塊

鋼材 厚板

(ロ) 副産物

煖炭爐副産物 硫酸アンモニア、ピッチ、ナフサリン、タール、モーターベンゾール、ソルベントナ

フサ、煉炭

六、生産高 最近ニ於テハ製鋼及壓延作業ヲ行ハザリシガ爲昭和八年中ニ於ケル銑鐵ノ生産高ヲ示セバ次ノ如シ。

一六一、二六三通

七、福利施設

(一) 従業員ニ社宅ヲ供シ、(二) 従業員及家族ノ爲ニハ病院ヲ設ケ、(三) 職員ニハ俱樂部、職工ニハ共

樂舎ヲ設ケ修養娛樂機關トシ、(四) 慰安會ヲ催シ、(五) 勤儉貯金ヲ獎勵シ、(六) 日用品購買ノ爲供給所ヲ設置ス。

二 瀨 鐵 業 所

一、沿革 官營製鐵所ニ於ケル煖炭原料及燃料炭ヲ自給スル爲附近ノ鐵區ヲ買收シ、明治三十二年十二月製鐵所ニ瀨出張所ヲ設置セリ。先ヅ高雄礦及中央礦ノ採炭ヲ行ヒ、稻葉礦ハ明治四十三年三月海軍省ヨリ譲受ケ、鹿町礦ハ大正九年買收ト共ニ採炭ヲ行ヒ來リシガ昭和九年二月一日製鐵所ノ出資ニ依リ之ヲ本會社ニ繼承シタリ。

二、組織 所長ノ下ニ庶務部及鐵業部ヲ置キ之ヲ二課、五礦、一病院、二係ニ分ツ。

中央礦、潤野礦、高雄礦(此ノ三礦ヲ合セニ瀨礦トモ稱ス) 福岡縣嘉穂郡穗波村

稻葉礦 同 縣同 郡稻葉村

鹿町礦 同 縣同 郡鹿町村

三、地質及炭層 二瀨礦及稻葉礦、第三紀層ニ屬シ、礫岩、砂岩及頁岩ノ五層ヨリ成リ、炭層ハ其ノ間ニ介在シ、十度乃至二十四度傾斜ス。炭層ハ二瀨及稻葉兩礦共良質炭層十三枚ヲ有シ其ノ厚サ二瀨ニ於テ一・四乃至六・八尺、稻葉ニテ一・八乃至五・三尺アリ。共ニ粘結力ヲ有シ煖炭用原料炭ニ適ス。鹿町礦ハ第三紀層ニ屬シ、砂岩及頁岩ノ五層中ニ炭層ヲ夾有シ、十度乃至四十度ノ傾斜ヲナセリ。炭層ハ良

七、作業所 (二瀨鐵業所)

二五

日本製鐵株式會社事業概要

二六

質ノモノニ枚アリ、厚サ一尺乃至三・五尺アレドモ夾多シ。炭質ハ粘結力強ク骸炭用配合炭ニ適ス。

四、作業概要 二瀬礦ハ堅坑二本斜坑四本ヲ穿テ長壁法採炭ヲ行フ。稻築礦ハ斜坑一本ヲ穿テ長壁法ヲ行フ。

鹿町礦ハ水平坑三本斜坑一本ヲ穿テ長壁法行拂ニ依リ既ニ海底下ノ採掘ヲ行ヘル部分アリ。

運搬ハ二瀬及稻築礦ニ於テハ切羽ニ「コンベヤ」ヲ用ヒ、片磐ハ可逆式「エンドレス」又ハ手押ニ依リ、

次デ坑外ニ捲揚ゲ洗炭ヲ行ヒ貨車積トス。鹿町礦ハ切羽ハ「スラ」又ハ「トーマス」式運搬法ヲ行ヒ、片磐

ハ手押ニ依リ、次デ坑外ニ捲揚ゲ洗炭ヲ行ヒ船運搬ヲ經テ本船積トス。

五、生産高 昭和八年中ニ於ケル各礦別生産高次ノ如シ。

二瀬礦	七七六、四四九噸
稻築礦	一一八、二八四噸
鹿町礦	一六六、八二二噸
計	一、〇六一、五五五噸

六、福利施設

(一)從業員及家族ノ爲病院ヲ置キ、(二)懇話會ヲ設ケ從業員ノ共通ノ利害ニ關スル事項ニ付懇談シテ

意思ノ疏通ヲ圖リ、(三)協議會ニ於テハ業務上及生活上ノ改善並相互ノ福利増進ニ關スル事項ヲ協議シ、(四)安

全委員會ヲ設ケ災害ノ防止及能率ノ増進ヲ圖リ、尙救護隊ヲモ編成ス。(五)購買會ヲ設ケ日用品ノ共同購買ヲ

行ヒ、(六)貯金會ニヨリ勤儉貯蓄ノ實ヲ舉ゲ、(七)共濟組合ニ於テハ公傷病其ノ他ニ對スル給付ヲ行ヒ、(八)共助

會ヲ設ケ從業員及家族並遺族ノ困厄ヲ救濟シ、(九)從業員會館ニハ德育部、體育部、圖書部及慰安所ヲ設ケ從業員ノ心身ノ修養、鍛鍊、休養、慰安等ニ資シツツアリ。

七、作業所 (二瀬礦業所)

二七

昭和九年九月二十一日印刷
昭和九年九月二十五日發行

(非賣品)

編輯兼
發行人
日本製鐵株式會社
代表者 中井勵作

印刷人
古橋照太郎
東京市京橋區築地參丁目拾番地

印刷所
株式會社 東京築地活版製造所
東京市京橋區築地參丁目拾番地

發行所
日本製鐵株式會社
東京市麴町區丸ノ内貳丁目貳拾番地壹